

NEWS!

Vol. 40-3
No. 201
令和3年夏号

編集・発行
松浦機械製作所



マツウラではハイブリッド金属3Dプリンタ **LUMEX Series** を用いた受託造形サービスを開始しました。世界で初めてハイブリッド金属3Dプリンタを世に送り出した、マツウラならではの最新技術を盛り込んだ、新しいモノづくりをご提案します。

加工依頼はもちろん、材料や加工詳細など、ご不明な点は弊社担当部門までお気軽にお問い合わせください。

対応造形サイズ

LUMEX Advance-25

造形物許容重量
150kg
H300mm
W256mm × D256mm

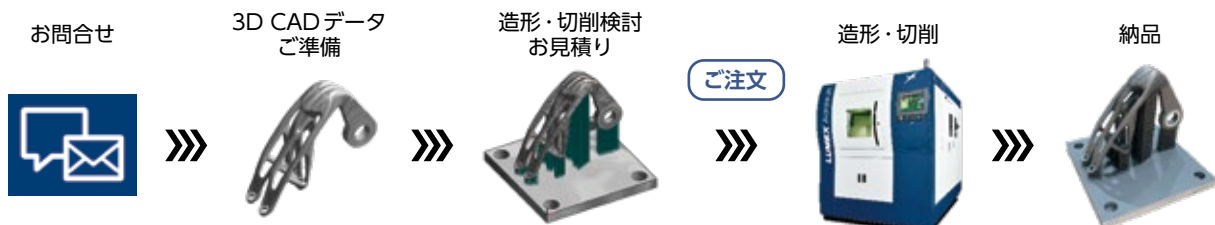


LUMEX Advance-60

造形物許容重量
1,300kg
H500mm
W600mm × D600mm



受託造形の流れ



LUMEX 機械概要について



対応粉末材料について

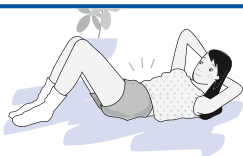


お問い合わせ先

株松浦機械製作所 営業本部 **LUMEX** 販売
カスタマーソリューションチーム

TEL: 0776-56-8129 FAX: 0776-56-8151
E-mail: jutaku_service@matsuura.co.jp

日本のヘソ 福井 No.199



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第199回目は「大安禅寺」の話です。このお寺は1658年に第4代福井藩主・松平光通が創建。2008年に国の重要文化財に指定されました。和尚による笑いの絶えない法話や座禅による禅体験も行っており、観光寺院という面だけでなく企業研修にもしばしば利用されています。また、この寺は敷地内の花菖蒲園も見どころの1つとなっており、6月は60種類・約10,000株の花菖蒲と約1,000株の紫陽花、そして100種類以上のバラが咲き誇り、周囲ののどかな雰

囲気と相まって都会の喧騒を忘れて心を落ち着かせることができます。

最近では、室内でプロジェクションマッピングを活用した音楽ライブや手作りによるこだわりの逸品を持ち寄ったフリーマーケットといった国内でも珍しい試みも行っています。

また、2019年9月から期間10年間、費用22億円を投じて兵庫県の姫路城に次ぐ大規模な重要文化財修復プロジェクトを行っています。修理は本堂をはじめとする8箇所で、現在は仮のお堂にて通常通り参拝や禅体験を行うことができます。時期が合えば修理中の堂内を見学することも可能です。コロナ禍が収束した際には、皆様も福井の隠れた観光スポットに足を運んでみてはいかがでしょうか。

ユーザーを訪ねて

No. 186

東北江南株式会社： 業界屈指の対応力で急成長する

今回のユーザーを訪ねては、東北自動車道の二本松から車で15分の距離にある東北江南株式会社です。取材には遠藤敏晶代表取締役に対応頂きました。樹脂加工業界で屈指の生産量を誇る同社は、多品種・少ロット加工への対応力に強みを持っています。特に半導体製造装置向けや、液晶製造装置向けの樹脂加工における技術力の高さが評価され、創業から現在に至るまで、堅調に事業を拡大しています。遠藤取締役は平成11年に同社に入社。製造部門でマシニングセンタをはじめとする工作機械のオペレーションを学んだ後、平成26年に代表取締役役に就任されました。



▲会社外観

販売事業の継承、加工事業の開始

同社の歴史は、昭和55年9月、神奈川県に本社を置くゴム・樹脂製品販売会社『江南ゴム』の東北営業所として開設されたことから始まります。遠藤取締役の父である遠藤昭雄会長は、当時『江南ゴム』に勤務されており、退職を機に東北営業所の経営権を継承する形で事業を開始。平成4年に、現在の『東北江南(株)』を設立します。設立から1年程は、前身となる企業と同じくゴム・樹脂製品の販売を中心に事業を展開。その後、樹脂看板や工作機械用樹脂力バーの需要増を受け、平成5年に工業用プラスチックの加工事業に乗り出します。当初は中古の旋盤とマシニングセンタを購入し、加工事業をスタートしました。以降、同社は順調に事業を拡大し、平成8年には生産能力増強のため、現在の所在地である福島県二本松市に本社を新築移転しました。

事業拡大と東日本大震災

その後も主力製品である半導体製造装置向け樹脂製品を中心に堅調に事業を拡大します。平成18年には本社工場の敷地内に計4棟の工場棟を建設するまでに成長。平成19年3月には中国蘇州に現地法人を設立するに至ります。順調に成長を遂げる最中であつた平成23年、東

北地方に甚大な被害を及ぼした東日本大震災に見舞われます。同社が本拠地を構える二本松市でも最大震度6強を記録。同社の設備も相当なダメージを負いました。しかし、創業当時から培ってきた細やかな対応力を武器に事業を継続。顧客からの安定した受注に後押しされ、今日では樹脂加工業界でも屈指の生産能力を誇る企業にまで成長しました。

最初のMAM72-35V

「事業を拡大する中で、多様化する顧客のニーズを満たすために、生産工程の効率化を図る必要がありました。ボトルネックとなっていた加工物の持ち換え作業の効率化を目指し、5軸マシニングセンタの設備を検討しました。若手エンジニアが主体となり、数々の勉強会に参加。5軸マシニングセンタに関する知識を深めるなかで、マツウラのマシニングセンタに出会いました」と語る遠藤取締役。5軸機の選定にあたり、遠藤取締役や昭雄会長も直々に、多数の勉強会に足を運んだとのこと。他社製品との比較検討を重ねた結果、スピンドルの精度の高さ、自動運転の安定性を評価し、平成31年1月、同社初のマツウラ製品となる**MAM72-35V**の設備に至りました。

「**MAM72-35V**は5面加工が必要な製品の量産で活躍しています。従来の3軸機で生じていた、ワーク持ち換えのロスも解消され、生産性が向上しました。特急品への対応にも力を発揮しています。多品種・少ロットの受注にも対応している当社では、短納期に対応できるメリットは大きいです。設備当初は何度かトラブルもありましたが、操作方法に慣れてからは安定的に稼働しています。マツウラのマシニングセンタは全体的に“しっかり動く”という印象。5軸切削加工の精度や割り出し加工の使用感にも満足しています。マツウラ独自の衝突防止機能『IPS』の精度も高く、自動化・無人化への安心感もあります。専用コードが必要となる他社製品と異なり、Gコードで制御できる素直な操作性が、若手オペレーターにとって使い



▲遠藤敏晶 代表取締役

樹脂加工のプロフェッショナル

勝手が良いとの声が、現場からも挙がっています」と語る遠藤取締役。

2年間で4台のマツウラ製マシニングセンタを設備

最初の**MAM72-35V**の設備以降も好調な受注が続き、更なる生産能力増強が必要となりました。1台目の設備から約1年後の令和2年2月に、2台目の**MAM72-35V**を設備。その5ヶ月後の同年7月には3台目の**MAM72-35V**を設備しました。リピートを決めた背景について遠藤取締役は「最初の**MAM72-35V**の設備後ほどなくして、1台では加工が追いつかないほどの受注を抱えました。1台目の使用感にも満足していたため、2台目以降も**MAM72-35V**を増設する運びとなりました」と振り返ります。立て続けに3台の**MAM72-35V**を設備した会社ですが、さらに設備増強は続きます。令和3年4月には、マシニング+旋削+研削の3つの機能を1台に集約した5軸複合マシニングセンタ**CUBLEX-35**を設備します。



▲3台の**MAM72-35V**

「半導体製造装置向けなどで樹脂加工の需要が急増しています。当初は、引き続き**MAM72-35V**の設備を検討していました。しかし5軸マシニングセンタの増設は急務だったため、ちょうどそのタイミングで即納が可能であった**CUBLEX-35**の設備を決めました。受注の増加に対応するため現在**CUBLEX-35**は、既に設備済みの**MAM72-35V**と同じく、量産用途で使用しています。将来的には**CUBLEX-35**の旋削機能を活用した、新しいモノづくりに取り組みたいと考えており、現在、新製品の開発を進めています」と遠藤取締役は今後の展望を語ります。

『お客様の満足は私たちの満足です。』の実現に向けて

無人化・自動化における安定感、生産効率の向上だけでなく、同社の人材育成にも良い影響を与えていると言います。

東北江南株式会社 概要

本社工場 〒969-1513
福島県二本松市小沢字柳原72-4
TEL 0243-61-3491
FAX 0243-53-2770

役員 代表取締役 遠藤 敏晶

設立 平成4年5月

従業員 244名

事業内容 工業用プラスチックの切削加工及び組立、
ゴム・樹脂製品の販売

「以前は機械のオペレーションに追われていたベテラン社員達が、若手社員の教育に時間を割けるようになりました。当社の未来を担う若手の育成にも、今後一層注力することができます」と遠藤取締役。約2年間のうちに4台という、異例のハイペースでマツウラ製品を設備した同社。現在も半導体製造装置向けを中心に樹脂加工のニーズは根強く、同社の更なる成長を予感させます。「今後は食料品製造分野など新たなマーケットの開拓にも力を入れたいです。当社のモットーである『お客様の満足は私たちの満足です。』の実現に向け、日々挑戦を続けていきます」と語る遠藤取締役。顧客満足を第一に考え、難度の高い要望にも怯むことなく対応することで、今日まで成長を続けてきた同社。今後も業界での存在感をより一層高めていけることでしょう。



▲令和3年4月に設備した**CUBLEX-35**

本稿の取材後、写真と動画撮影のため、マツウラ製品4台が設置されている第5工場にお邪魔しました。4台のマシニングセンタが至近距離でフル稼働する姿は圧巻です。生産性の効率化を叶えたマツウラのマシンは、従業員の皆さんの働きやすさにも貢献しているとの事です。撮影の傍ら、入社後間もないという女性オペレーターが手際よく、4台のマシニングセンタを操作されている様子が印象的でした。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り、ご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



製品紹介

5軸制御立形マシニングセンタ **MAM72-35V**

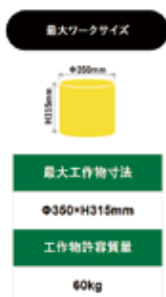
“ユーザーを訪ねて”にも登場した5軸制御立形マシニングセンタ **MAM72-35V**。
当製品の開発当時のこだわりや活用方法についてご紹介します。



▲ **MAM72-35V PC32**

Upgrade!

新時代への進化。5軸の力を、最大限に。



B/C軸にダイレクトドライブ (DD) モータ搭載
割り出し時間が半分に

ツールマガジン・パレットシステムの
拡張性アップ

ワーク、主軸への接近性が向上

大型タッチパネルを採用した操作パネル

開発者インタビュー

— 開発当時のコンセプト

MAM72シリーズは「多品種少量・変種変量」というコンセプトに基づき開発しています。それは1987年に社内設備として自社で設計開発した**BIGMAM**から、最新の**MAM72-35V**に至るまで一貫して受け継がれています。

— それまでの**MAM72**シリーズとの違いは？

1992年に登場した**MAM72-3VS**に対し、より大型のワークを加工したいとのニーズが高まりました。**MAM72-3VS**と同じ骨格のサイズで、加工可能なワークサイズを300φから350φに拡大したのが、2000年にデビューした**MAM72-35V** (以下、前モデル) です。

前モデルはお客様から高い評価を受け、好調な販売を記録しました。ベストセラー機の後継機を開発するハードルは高いものでしたが、ツールマガジンやパレットチェンジャーのフレキシブル性 (他機種との互換性) を高め、且つワークサイズやパレット数のバリエーションを増やす方向性で開発したのが、2012年にデビューした現行型の**MAM72-35V** (以下、現行モデル) です。

— 開発当時のこだわり

現行モデルは前モデルと比べ基本性能を格段に高めています。時代の変遷に伴いNC装置はより高機能になりました。B/C軸にDDモータを採用したことから加工スピードと精度も向上しています。また加工エリアへアクセスする為の開口部を、従来の小窓程度の大きさから、人が入ることができるほどのサイズに拡大したことで、近接性を大幅に高めました。

— 開発で苦労したエピソード

先述した開口部の拡大には特に苦労しました。開口部のレイアウトは、機械に付随するオプションによって制

開発担当

技術本部 開発研究

山口 浩幸

(1984年入社)



約を受けます。そのため開口部の拡大は非常に難易度の高い試みでした。開口部を広くとることで、切削油が漏れ出すリスクも高まります、また機内に切粉が詰まってしまうというトラブルも解消する必要がありました。

また前モデルと比べ機械の重量を軽く設計したことで、機械の振動が大きくなりました。当時は振動の対策にも苦心したことを記憶しています。

— 開発者が提案する機械の活用法

MAM72-35Vは様々な用途に幅広く対応できる機械です。活用方法もお客様によって様々です。単一のワークの量産に用いられる事もあれば、パレット毎に異なる治具を装着し多品種少量生産に活用されることもあります。お客様のニーズに幅広く対応できる所以は、**MAM72**シリーズの誕生当初から受け継がれている「多品種少量・変種変量」というコンセプトが、非常に完成したものであることの証左だといえるでしょう。

ですので、強いて開発者の立場からお客様に活用法を提案するのであれば、適切にメンテナンスをして頂き、綺麗に末永く使って頂ければと思います。



▲ 初代 **MAM72-35V**



▲ 製品紹介ページ

新役員に訊く

営業・技術本部管掌 兼 執行役員 DX推進室長

取締役 松浦 悠人



令和3年3月に新役員に就任した、松浦悠人取締役（営業・技術本部管掌 兼 執行役員 DX推進室長）にインタビューを実施。学生時代や趣味のお話、松浦取締役の描くマツウラの将来像について訊きました。

— 学生時代の専攻は？

機械工学を専攻していました。京都大学 工学部 物理工学科の機械システム学コースに在籍、熱流体力学の研究室に所属しました。

— 大学院時代について。

大学卒業後はカナダのトロント大学院に入学しました。単位に関するシビアさが日本の大学とは桁違いであったため、大学院時代は、人生の中で最も勉強に打ち込んだ期間です。

— 趣味について。

大学時代に筋トレに目覚めました。高校生の頃まではガリガリだったのですが、自分を変えようと思い立ち、公園の鉄棒で懸垂をしたことが始まりです。

旅行も好きで、欧米やアジアなどの様々な国を訪れています。

— DX推進室の今後の展望は？

“省人化”に尽きます。現在DX推進室が取り組んでいる動画の拡充もそのための施策です。従来、人手を割いていたあらゆる業務を動画に置き換えられれば、省人化を叶えるツールとなり得ます。但し、全社的な業務の省人化へと繋げるためには、途方もない量の動画が必要となります。社内全体に「動画の拡充が自身の業務負担の軽減に繋がる」という意識を浸透させ、協力を仰がなければ、動画を省人化に繋げることは困難でしょう。

— マツウラをどのような会社になりたいですか？

私の考えるマツウラの強みは二つ。「直系の家族経営」であること、また「非上場企業」であることです。著名な投資家のなかには投資先を選ぶ条件として「オーナー系企業」を挙げる方が少なくありません。大手上場企業と比べ、長期的な視野で投資できるためです。オーナー系且つ非上場企業であるマツウラであれば、長期的な計画を立てることが可能です。世界情勢の行く末を見据え、マツウラの進むべき道を見出すことが、私の役割だと感じています。

— 松浦取締役の考えるマツウラの進むべき道とは？

私が最も問題視していることが“人口の減少”です。2020年の国内出生数は、前年と比べ約2万人も減少しています。今後も人口減少は続くことでしょう。マツウラの目指すべき姿は、人口が減少しても事業を継続できる「持続可能な企業」になることです。

— 「持続可能性」の実現に向けて、マツウラに必要なことは？

新しい事に一丸となって取り組む姿勢が必要です。世界情勢が変化中、失敗を恐れてリスクを取る事が出来なければ、会社が生き残る事は難しいでしょう。変化を恐れず団結できる組織になることが、持続可能なマツウラを作るためには不可欠です。

取締役 松浦 悠人

コラム

今号からコラムを書かせていただきます、拙文にて恐縮ですがお付き合いの程よろしく願います。

ます。

DX推進室の活動ですが、特に力を入れているのは動画活用です。今まで直接訪問していた営業マン、後輩社員に組立手順を教える先輩社員、その人達の代わりに動画が働いてくれたら、それは省人化につながる立派なDXだと思うのです。DX推進室は私を含め2名体制で、撮影・編集を行っています。実は大した機材はなく、マイクなどの周辺機器は某ECサイトで購入した一般的なものですし、撮影は携帯電話で行っています。編集を凝りすぎると私のノートパソコンは火を噴きそうなくらい熱を持ちますが、何とかやっています。個人のYouTuberの活躍が増えていますが、動画配信の技術的な障壁が以前と比べると格段に低くなった結果でしょう。実際にDX推進室の活動開始時、編集に関しては全くの素人だった我々ですが、安定した“生産体制”を築いています。「取り組みたいが難しそう。」というのがDX

と聞くとすることです。しかしこれは、動画作成に対しても同じことを思っていました。IoTやAIも我々のDXの課題ですが、素人だろうがとにかくやってみるということが大事な気がします。

米国成人の統計ですが、コロナ禍前後でYouTubeを利用したことのある人は73%から81%に上昇、YouTube社としての広告収益も大幅増加とのこと。確かにステイホームでYouTubeを見出したという方もいらっしゃるようです。私もそのうちの一人です。読書が趣味なのですが、どうしても雑音がある環境では集中できず、代わりにYouTubeで勉強しているときがあります。選別眼は必要ですが、YouTubeで学べない分野はないのだと実感しています。有名な著者の方の場合だと書籍と同じような内容を発信しているものもあり、学ぶプロセスにおいて“本を読む”という行為がいつか陳腐化したりして…と思いを巡らせています。そんな動画の力と成長を信じて、マツウラについて分かりやすく学べる動画配信をしています。もしご興味ありましたらマツウラのYouTubeもぜひ一度ご覧ください。

海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツにて積極的に作成しております。本誌では、配信中の動画からピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードやマツウラYouTubeチャンネルよりアクセスいただき動画をご視聴ください。

Flying S社

「マツウラの自動化で、 働きがいのある企業ベスト100 (中小企業版) にランクイン」



Flying S社はその名の通り、航空機部品加工をメインに行っておりカーボンファイバー製の航空機の翼などを加工しているほか、金型加工も行っています。普段は機密保持の関係から社外の人を入れることは減多にないそうですが、今回のインタビューでは特別に工場の中に案内されました。



今回インタビューを受けたBenさんは機械検討にあたりYouTubeでマツウラを取り上げているものは全部見たそうで、2019年に**MX-520 PC4**と**MX-850 PC4**の2台を導入されました。



夜間と週末に無人運転を行ったり、加工中に他のワークの段取り・検査を行うなど、機械を極力止めないようにした結果、導入からたった7ヶ月で他社機の5年分(60ヵ月分)の機械稼働時間と生産高を超えてしまったと語ります。



そんなBenさんがマツウラを選んだ決め手になったのは多品種少量生産・高精度・使いやすさの3点でした。

「他社の機械では、なかなか狙った精度を一発で出すことはできなかったです。でも、マツウラは思った通りに加工できて、安心して機械から取り出せます。」



「今までマツウラを使ったことがなかったので操作方法は簡単かどうか心配でしたが、操作指導の数日で本当に使いやすいインターフェースだと実感しました。実際に5歳の息子でもパレット交換の操作ができるぐらい簡単です。」



「パレットチェンジャーのおかげで、定時近くにまだ加工中でも少なくとも3枚のパレットを段取りできます。これなら夜間機械を稼働させるには十分なサイクルタイムを確保できます。わざわざ長時間のワークを夜間用にとっておく必要もありません。」

Flying S社のオーナー一族は1700年代から牧場も経営していて、社員は福利厚生で「Flying S Beef」と呼ばれる牛肉を割引価格で購入できるそうです。そのほか従業員を大切にする社風も相まって、2020年にはアメリカのビジネス誌「FORTUNE」が選ぶ「働きがいのある企業ベスト100 (中小企業版)」にランクインしています。

Benさんもインタビューの中でマツウラの自動化によるメリットのひとつに「家族との時間が増えた」ことを挙げています。アンケート調査で社員の99%が働きやすい会社だと回答したのも、マツウラの自動化ソリューションがあってこそその話かもしれません。

新体制のご紹介

統合物流本部



統合物流本部長 一 裕信

今号より新体制本部の紹介がはじまります。第1回は統合物流本部です。

統合物流本部長の一 裕信 いち ひろのぶです。名前の通り第1回目を担当します。

年齢56歳で昭和58年入社組立・生産管理・購買と38年

以上を生産関係に携わってきました。

統合物流本部には生産管理、購買、加工、物流、スピンドル事業という5つのグループがある本部で、生産計画をつくり計画通りに部品を組立に供給する本部になります。

部品の長納期化と価格高騰に追われながらも組立の必要な時に必要な分を供給する事を行っています。しかし、厳しい調達・供給環境に追われていると余裕がなくなり仕事上での夢を見ることができなくなっています。だから、統合物流本部は自分たちの仕事の「夢を創る本部」を目指しています。本部員全員が夢見るではなく夢を創る、現実を変えていく集団となる、これが本部長の私が創っている統合物流本部の夢です。

今回は統合物流本部メンバーが創っている夢のひとつ、加工工場を紹介します。

マツウラの加工工場は設備機も古くなってきて設備機更新が必要な時期にきています。この時期を機会に将来のあるべき姿を明確にして生まれ変わっていきとしています。それが加工工場のスマート工場化です。いきなり工場内すべてがスマート工場になったり、加工メンバー全員がスマート工場化の夢を創ることはできません。最初は工場内のある部分をスマート工場エリアにします。そのエリアが実現していくことで、最初は小さなエリア、特定のメンバーが行っていた事が、エリアを拡大させていき、夢を創る事に賛同する人も増えていく、どんどん膨らむ加速度的に膨張していく、そういう手作りのスマート工場化です。

自社の機械を設備していきますが、そこにはIoTによる見える化やIoTで何ができるのかという視点で新しい物を付けていきます。将来はそこからマツウラ製品ラインナップに採用される物が出てくるかもしれません。

毎年変化していく加工工場を皆さんにお見せできる日を楽しみにしております。コロナ感染が収束し安心してマツウラにお越しいただける時には組立工場だけでなく、ぜひ統合物流本部の加工工場や物流工場をご覧ください。

シングルorダブル

検疫 Quarantine



社長 松浦 勝俊

新型コロナウイルスに対するワクチン接種は、身近な高齢者に接種を済まされた方々がたくさん居られることで、大分広まってきたと実感しております。実際に高齢者の感染は減少傾向にあり、重症化予防のワクチン効果も見えています。とは言え、新たな

変異型ウイルスも散見され、東京都では新規感染ペースが拡大しており、ワクチンの供給問題も浮上し、本執筆時点のオリンピック前ではまだまだ予測を許さない状況が続いています。50代以下の世代にワクチン接種が広く実施され集団免疫力を上げることで、1日も早く通常の社会生活や経済活動に近づくことを期待したいところです。

そんな本格的な企業活動が制限されている中で、我々特に海外出張には大変苦労しています。出張者には出張3日前にPCR検査証明を実施し、空港検疫で要求されるのが、国にもよりますが原則入国時2週間、帰国時に2週間の隔離期間があり、出張期間に隔離期間1ヶ月が加わることで人員のやりくりを

悩ませながら海外出張を行っています。

私も以前よく海外出張をしていた時に空港の検疫がQuarantineと表記されていて、英語っぽくなく変わった表記で響きからして何となくラテン系の数字4に関係するものだろうぐらいに思っていました。実際に調べて見ると、これはイタリア語の40日Quarantenaから来たもので、14世紀中世のイタリア・ベネチアで感染症のペストが大流行した折に、地中海を行き来していた船がペストを運んで来る原因とされ、経験則として昔から感染症は人から人へうつるということは分かっていたので、船の人が交わらないよう入港前に40日間港の外に待たせて、感染症対策の確認をして上陸させていたようです。そこから、40日間船を港から隔離させる感染症対策をQuarantenaと呼び、英語で隔離や検疫という意味のQuarantineになったというわけです。

感染症対策の基本となる人と人との接触を断つのは十分理解できますが、まずは、感染症予防の新型コロナウイルスワクチンの接種証明、いわゆる「ワクチンパスポート」が早期に発行されて、この2週間の隔離期間がなくても済むようになってもらいたいものです。

お知らせ

1 「MECT2021」(メカトロテックジャパン)に出展

名古屋市でFA技術専門展「MECT2021」が開催されます。この展示会は、西暦奇数年の秋に名古屋市のポートメッセなごやで行われ、奇数年の工作機械展としては国内最大規模です。

- 会期 2021年10月20日(水)～23日(土)
- 時間 10:00～17:00
(22日(金)は18:00まで、23日(土)は16:00まで)
- 会場 ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)

MECT 2021
メカトロテック ジャパン 2021
MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN



2 「EMO MILANO 2021」(欧州国際機械見本市)に出展

世界三大工作機械見本市の一つ、EMOショーが欧州で開催されます。EMOはイタリアとドイツで交互に開催されており、イタリア開催は2015年以来6年ぶりとなります。

- 会期 2021年10月4日(月)～9日(土)
- 会場 Fiera Milano

EMO
MILANO
2021



3 マツウラが経済産業省からDX認定を受ける

2021年7月1日、マツウラは経済産業省が推進する「DX認定制度」の認定を受けました。「DX認定制度」とは、戦略的なシステム利用の在り方について「情報処理の促進に関する法律」の指針に基づき、優良な取り組みを実施している事業者を国が認定する制度です。

マツウラではDX戦略を掲げ、デジタルコンテンツを用いたプロモーションや、社内システムの効率化を推進することで、時代の急激な変化に対応できる企業づくりに取り組んでまいります。

4 坂井高校、科学技術高校インターンシップを実施

6月15日(火)～17日(木)に坂井高校から2名、6月30日(水)～7月2日(金)に科学技術高校から3名の学生がマツウラのインターンシップに参加しました。

統合物流本部での職業体験を終えた学生たちからは「授業では学べない仕事の大変さと、モノづくりの楽しさを学んだ」「将来、自分が働く姿がイメージできた」などの感想がありがとうございました。

5 天皇杯 JFA で福井ユナイテッドFCが大分トリニータ(J1)と対戦

7/7(水)に行われた第101回天皇杯 JFAの三回戦にて、福井ユナイテッドFCがJ1所属の大分トリニータと対戦しました。同大会はJ1、J2、アマチュア、都道府県代表の全90チームがトーナメント方式で争います。マツウラでも有志を募り福井ユナイテッドFCの応援に駆け付けました。

結果は0-2と大分トリニータが勝利を収めましたが、福井ユナイテッドFCも果敢な攻勢を見せ、幾度も相手ゴールを脅かす白熱した一戦となりました。



◀応援に駆け付けたマツウラ社員一同



▲第101回 天皇杯 JFA

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から6月度の受注状況が発表されました。6月度の工作機械受注額は1,321億円(前月比107%増)と27カ月ぶりに1,300億円を超えました。内需は447億円(前月比135%増)と2019年9月以来21ヶ月ぶりに440億円を超えました。5月はゴールデンウィークによる営業日減や緊急事態宣言の延長などといった理

由から伸び悩んだものの、6月は補助金採択案件での受注がみられ回復が進みました。外需は874億円(前月比96%増)と依然高水準の受注が続いており、中国や欧米を中心とした回復が続いています。

* お知らせ 5でお伝えしている通り、当社が経済産業省よりDX認定事業者を取得いたしました。2020年9月にDX推進室を発足し、SNSやYouTubeによる動画配信で主に企業プロモーション

を行ってまいりました。今までマツウラをご存知なかった方々にも当社のモノづくりへのこだわりを知って頂く良い機会になっていると思います。本誌にも各所に記事にちなんだ動画へアクセスするためのQRコードを記載しております。皆様もぜひご覧ください。今後は業務改善にもDXを取り入れていき、お客様により良い製品をお届けできるよう業務の効率化を目指してまいります。